
三月語の小劇場

三月語

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三月語の小劇場

【Nコード】

N4807K

【作者名】

三月語

【あらすじ】

「バカとクロスとつたなき物語」と「モンスターハンター 狩人とモンスターの奇妙な話」のキャラが繰り広げる小劇場！

話一つ一つにつながりはなく、独立してます

説明

どうも、三月語です。

この小説は感想やなにかで誰かが出張したときになにかお土産を買ったときや気まぐれで更新する小劇場的なお話です。

メンバーは私の小説、「バカとクロスとつたなき物語」「モンスターハンター 狩人とモンスターの奇妙な話」のキャラクターと私、三月語です。

（基本的に、レオン・ウィリアは出てきます。あとのキャラは出るかは私の気分次第です。）

元の小説とは関係ない話ばかりなのでイメージが崩壊します。

この話書かれる際、お土産掲載の時は事前に連絡しますので。

劇場1（前書き）

劇場1です。

今回はイントロダクションみたいなものだと思ってください。

劇場 1

劇場 1

キラとレオンとアイリスとウィリア

「レオン、今日かなり活躍したね。」
「でも囧は嫌だな。」

「ふう。お引越し完了っ！」
「ふええ、疲れた……」

「今日、お隣が引越してくるって話だけど。」
「あの子たちかな？」

「あの、お隣ですか？」
「あ、はい。そうです。えっと……」

「初めまして、キラ・ヤマトです。」
「僕はレオン。」
「それで、あなたたちは……」

「あ、初めまして、アイリスです。」
「あ、あの……は、初め……まして……。う……ウィリア
です……」

(ウィリア：あうう・・・)

「今日からよろしく願いします。」

「こちらこそ。」

ヤマト宅

「それで、こちらに来たのは・・・」

「あ、あの。敬語じゃなくていいですよ?」

「えっ・・・じ、じゃあ、そちらも・・・。それで、なんでこっちに来たの?」

「ウィリアのためなの。」

「ウィリアちゃんのか?」

「そうなの。ウィリア、恥ずかしがりやだからね。こっちにきたら治らないかなって。」

「そうなんだ・・・。僕も協力する。」

「僕も!」

「二人ともありがとう!」

「僕たちのことは呼び捨てでいいから。」

「じゃあ、私たちも呼び捨てで。」

キラ・レオンと、アイリス・ウィリアは、こうして出会った。

劇場2（前書き）

劇場2、公開です！

山田花太郎さんの許可を得て、執筆しました。

山田花太郎さん、ありがとうございます！

では、始まり始まり！

劇場 2

劇場 2

試食会（という名の実験）後話

（今後、みんな知り合いになった設定になります）

「み・・・みんなぁ・・・山田花太郎さんからお土産・・・ガク。」

「れ、レオン！」

「大丈夫ですか!？」

「胃・・・胃薬を・・・」

「くおお・・・お、お腹が・・・」

「それで、お土産って？」

「リーガルさんが作ったカレー、サラダ、フルーツポンチだって。」

「お・・・おいしそう・・・」

「じゅるりぞ。」

「アイリス、涎・・・」

「はっ!？」

「じゃあ・・・」

『いただきます!』

「おいしーい！」

「本当だ、おいしい。」

「天にも昇るおいしさって……このことなんだね……」

「おーい、キラー。」

「レイン？」

キラン！（レオンの目が光る音……）

「キシヤアアアアア！」

「れ、レオン！？」

「この恨みい……はらさでえ……おおくべえきかあああ！」

ダッ！

バァン！

「れ、レオン！？」

「ガァアントウレエエツト、ハァアァアディィィイス！」

ドカァン！

「うおわ！な、なにになに！？」

「貴様のせい……貴様のせい……僕は地獄を見たんじゃああああ！」

「ぎゃああああああ！」

「怖いよ……（ふるふるふる）」

「体が……体が震えて動けない……」

その夜、レオンとレインは一晩中走り回ったとか。

劇場2（後書き）

今回は山田花太郎さんの方の感想後日談です。

レオンの放った『ガントレットハーデイス』、わざとあの発音にしました。

レオンの苦しみ、解っていたただけたでしょうか？

次回はリアルルイージさんの許可を得ている、『レッド名言集Part 3』が出てきます！

お楽しみに！

では、これにて劇場2、閉幕させていただきます。

劇場3（前書き）

今回はZEROさんから許可をいただきました、「レッド名言集」
が出来ます！

文章自体は短いので期待はしないでください・・・

では、劇場第三幕、開幕です！

劇場3

劇場3

「レッド名言集」・・・あれ？いきなりPart3？

「ふん♪ふふん♪」

（アイリスは鼻歌を歌いながら食器を洗っていた）

きーんこーん。

お届けものでーす。

「あ、はい！」

「誰からだろ？あ、作者からだ。なになに？」「前に頼まれた「レッド名言集」、到着したので送りました」。来たんだ！やった！」

（早速読んでみた）

「ぶっ！なにこれ・・・ぶくく・・・」
t j a g g . j a g g . g g g g j g g 「って・・・」
「..」

きんこーん。

「あ、誰か来た。はい！」

「レオンだけどー！あれ届いたー！？」

ガチャ。

「大声出さなくてもいいのに。届いてるよ。」

「じゃ、読もう！」

（二人で読み始めた）

「だはははははは！」

「馬鹿をとつたら何が残る」

「キムチだ！」

「そりゃねーよ！プリムらしきなにかだろ！キムチ残ったら怖えーよ！」

「あはははははは！な、なんて読むのこれ！？」

「せ、せとふじこしかわかんない！なんかのやつでこれを読んだやつがあったと思う！」

「だ、ダメ！お腹痛い！笑いすぎて！」

この日、アイリス・ウィリアの家から笑い声がこだました・・・

劇場3（後書き）

今回の名言は自由にしても構わないと許可を貰えたので、探しに探して構成しました。

ZEROさん、ありがとうございました！

次回は・・・未定です！

では、これにて劇場第三幕閉幕いたします・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4807k/>

三月語の小劇場

2010年10月9日05時06分発行